

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年5月30日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873100978		
法人名	医療法人社団 正信会		
事業所名	グループホーム 大洗	ユニット名	一の館
所在地	〒311-1311 茨城県東茨城郡大洗町大貫町長峰2922-1		
自己評価作成日	平成23年9月22日	評価結果 市町村受理日	平成24年5月17日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0873100978&amp;SCD=320&amp;PCD=08">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0873100978&amp;SCD=320&amp;PCD=08</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成23年11月22日	評価確定日	平成24年5月10日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>利用者様、職員共に笑顔のあるグループホームになるよう努力している。利用者様の体調変化には日々、毎日きをつけている。急変があった場合には、24時間医療体制は、整えてありいつでも対応している。「自分らしく、生きる」の理念のもと、日々考えながら過ごしている。社訓である「やさしく、しんせつ、ていねいに」の理念も、常に頭にいれて日々努力している。今年も、職員の異動もなく、安定している。本年は、東日本大震災が起き大きな被害がありました。ライフラインが止まり職員が力を合わせ、町役場から食糧や乾電池、飲料水などの物資、近隣の方から井戸水を頂いたりと連携し今回の難局を乗り越えました。利用者様は誰1人怪我なく過ごせました。電話が通じなかったため茨城放送で安否情報を伝えました。災害はいつ、起こるかわからないので、常に災害対策には力をいれていきたいと思えます。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は涸沼の近くにあり、自然環境豊かなところに立地している。 運営母体が病院であるため24時間の医療体制が整っており、協力が得られるとともに、管理者を中心として職員同士が仲良く協力して支援に努めており、利用者は安心とともに温かな雰囲気の中穏やかに過ごしている。 献立は法人の栄養士が作成しているが、時には利用者の好みを取り入れたり行事食にするなど、食事が楽しみなものとなるよう工夫するとともに、美味しくバランスのとれた食事は利用者の楽しみとなっている。 3ユニットは平屋建てで、どの部屋からもそれぞれの広い中庭が臨め、季節毎に楽しめる草木が植栽された庭はよく手入れされており、利用者の日々の生活に潤いを与えている。</p>
---

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念として、「自分らしく、生きる」を掲げている。入居者の方に、習字で書いて頂き、玄関に貼り、常に意識しながら働いている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成しているが、理念を職員で話し合う機会を設けて共有するまでには至っていない。 利用者が筆書きした理念を玄関に掲示している。	理念を共有したり意識付けを図るため、日々職員で話し合い実践につなげる取り組みが望まれる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園児、中学生の体験学習を通して地元の人々と交流することに努めている。その他、散歩のときに出会う畑仕事の方や、釣りの人たちとも、積極的にあいさつなどし交流している。	定期的に地域のボランティアが来訪するほか、保育園児の訪問がある。 利用者は散歩時に近隣住民と挨拶を交わすほか、七夕飾りの笹竹を頂いたり災害時には井戸水の支援を受けるなど、日常的に交流している。 職場体験学習として近隣の中学生を受け入れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用料金を期間限定ではあるが、1ヶ月、7万円にして、町の方が見学や入所しやすくした。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表、民生委員、行政、職員などで構成され2ヶ月に1回定期的に開催し、ホームの状況や抱えている問題点など意見交換を行いサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、地域住民の代表、民生委員で2ヶ月に1回開催している。 会議では事業所の活動報告を行うとともに、運営上の問題点や外部評価の結果を話し合っている。 防災に関して、委員から出た意見や提案などをサービスの質の向上に活かしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居状況について町役場からも日頃より連絡をとり実情を伝え協力関係を築き取り組んでいる。	町職員が毎回運営推進会議に出席している。 管理者は町職員に日頃から運営上の問題などを相談してアドバイスを受けて、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えるほか、連絡を密にとり協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、家族等に説明し納得の上、行っているが、事業所としては、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。職員も、理解している。	職員は身体拘束の内容とその弊害を理解し、身体拘束をしないケアの実践に努めているが、マニュアルを作成したり研修を実施するまでには至っていない。 以前に止むを得ず身体拘束を行った際には家族等に同意を得るとともに、定期的に見直し経過観察記録を作成して身体拘束をしなくて済むよう取り組んだ経験がある。 利用者の安全のため家族等の同意を得て玄関を施錠しているが、利用者は広い中庭に自由に出入りができ抑圧感のない生活をしている。	身体拘束排除に向けたマニュアルを作成するほか、研修会を実施して全職員が身体拘束の内容とその弊害を正しく理解し、安全を確保しつつ利用者の自由な暮らしの支援に取り組むことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待がないよう、日々話し合いを持ちながら、ホーム内研修も行って、職員の意識を高めて取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員に成年後見制度の資料を配布し、理解を深めた。入所者の中にも、成年後見制度を利用している方がいる。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約に関しても、家族に、十分に説明し、納得した上で入所して、いただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を提示している。利用者が何でも話せるように、ひとり、ひとりコミュニケーションを、取っている。面会時には、近況報告だけでなく、施設に対する意見や要望を聞き、運営に反映させている。	重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記している。 利用者からは日々の生活の中で意向の把握に努め、家族等には来訪時や電話連絡時に話を聴くなど、日頃から何でも話せるようコミュニケーションを図っている。 家族アンケートを実施し、入浴や外出などの意見を受けて職員で話し合い、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、月例を行い意見交換を行っている。また、その都度、問題点は、話し合える環境を作っている。	管理者は日々の申し送り時や月1回開催する定例のミーティング時に、職員の意見や提案を聞く機会を設けるほか、日頃から職員とコミュニケーションを図り意見や提案を気軽に出せるような雰囲気づくりに努めている。 勤務体制や異動など、職員から出た意見や提案はその都度話し合い運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に無理のないようなローテーションを組み、いつでも対応できる人数のもとで、勤務できるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の他施設に研修に行ったり、町の研修会に参加している。また、介護福祉士やケアマネージャー試験にも、積極的に挑戦していける機会の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	3. 11の東日本大震災を経験して、同業者と交流の機会が増え、ネットワークづくりが進み、災害時はお互い助け合う取組みをしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの情報をもとに、本人の希望に沿った介護ができるよう支援している。コミュニケーションを密に取り、本人の意向を汲み取り、安心した生活を送れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時のアセスメントだけでなく、面会時や、電話などで、家族の不安や、もとめていることを、受け止めるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時、家族と本人の希望をきいて他医院の継続支援など必要なサービス支援を行えるよう対応している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごす中で、職員も笑ったり泣いたり喜んだり共に支えあう関係を築いている。特に、3.11の大震災があり、ライフラインが止まり、全員が協力し共に支えあう関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	心配ごと、悩みなど相談に、その都度応じる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者への家族や友人など面会時の時には、居室でゆっくり過ごせるように支援し、飲み物などを提供している。	職員は利用者の親戚や知人の来訪時には居室でゆっくり話ができるよう配慮をしている。 年賀状や礼状などの手紙のやり取りや、共用空間にある公衆電話で知人や友人に電話ができるよう支援するとともに、家族等の協力で外食や墓参りに出かけるなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶、散歩、レクリエーションなど仲良く会話できるよう空間設定や、雰囲気作りに努めている。孤立しないよう、絶えず見守り、声掛けを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関連病院に行った場合は、サービス終了しても、関係を断ち切らない取組をし相談や、支援に、努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の視点に立って、アセスメントを行いチームでの話し合いをもうけて、検討しております。	職員は利用者の生活歴を把握するとともに、さりげなく話しかけて思いや希望を聴き、信頼関係を築きながら利用者の思いや意向にそった支援ができるように努めている。 思いを表わせない利用者には家族等から話を聴いたり、話し方や表情、しぐさなどから思いを汲みとるよう努め、利用者本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に情報提供を頂いたり家族から聞きとりをして、安心して過ごせるような、環境作りに努めています。			
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌、ケース記録、申し送りノート、朝礼により一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態を把握できるよう努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チーム内でのケアカンファレンスを開き、家族の意見を聞いて、現状に合った介護計画を作成している。	介護計画は利用者や家族等の意向や課題を把握し、その人らしく暮らせるように作成するとともに、家族等の来訪時に説明して確認を得ている。 月例会議で利用者の生活状況を把握しモニタリングを行うとともに、心身の状態や利用者、家族等の要望が変化した場合は現状に即した介護計画に見直している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の状況を記録し、ケアの実践に取り組み、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じたニーズ、サービスの支援の多機能化に取り組んでいる。（タクシー利用など）		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署、警察署、ボランティアにも働きかけて入居者の安否の見守りをお願いしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と相談の上かかりつけ医を、きめている。当、施設関連医院にない医療科もあるため専門科への受診は、家族にお願いしています。	利用者や家族等が希望するかかりつけ医への受診を支援しており、家族等が受診に付き添う場合には利用者の身体状況を医師に書面で伝え適切な医療が受けられるように取り組むとともに、受診結果は共有している。 月2回協力医療機関の医師による定期的な訪問診療がある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	適切な看護を受けられるよう電話相談し、随時受診や看護を受けられる様に支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族の希望を聞きながら病院との連携を図り早期退院に向けた働きかけをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、速やかに家族、医師と話し合い、本人の希望、家族の意向を確認しながら対応、方針の共有を図っている。	重度化した場合や終末期のあり方について、事業所の対応指針を作成するとともに、契約時に利用者や家族等に事業所でできることとできないことを説明し、同意を得ている。 重度化対応マニュアルを作成したり研修を実施するまでには至っていない。	重度化対応マニュアルを作成し、看取りに関する研修を実施して職員で内容を共有することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当のマニュアルは、すぐ目のつく所にはってあるが、定期的、講習、訓練は、していない。月2回訪問診察時、急変時の初期対応について、看護師から指導を受け対応出来るよう備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災による避難訓練をおこなっていたが、今年3.11の東日本大震災の様な、大規模地震の場合、建物の被害がない場合は留まり、ライフラインが回復するまで、地域の方や町役場の方と協力体制を築いて災害対策に努めている。	消防署立会いのもと年2回夜間想定を含めた避難訓練を実施している。 訓練に地域住民の参加を得たり、避難訓練の結果を記録するまでには至っていない。 緊急連絡網を掲示しているほか、災害時に備えて食糧や飲料水などを備蓄し、リストを作成して管理している。	運営推進会議などで避難訓練に地域住民の参加を呼びかけ、事業所の災害対策に理解を深めてもらうなど、協力体制を築いていくことが望まれる。 避難訓練の結果は記録し、反省点を話し合っって次回に活かすことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導や入浴介助の際、利用者のプライドを、傷つけないよう場面に応じた言葉かけや、さりげない対応に努めている。	職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、トイレ介助や入浴時には誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや対応に努めている。 個人情報に関する書類は事務室の書棚に保管するなど、取り扱いには十分注意をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から言葉かけを多くし、信頼関係を築き、自分の気持ちが言えるよう支援している。意志表示が出来ない方は、表情や行動に表れるサインに気づくよう努めている。	/		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分のペースで、生活して、いただくように、支援しているが、決められた時間の中での生活なので、難しい時もある。利用者の方も、何をどうしたら良いのか迷ったときは、本人の気持ちを大切に、柔軟な支援をしています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1度、理容を行い、本人の希望の髪型にしています。洋服も、自分で選ぶことのできる人は、その日の気分合った服を着てもらっておしゃれが出来るよう支援している。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは、決まっているが、特別メニューにして、希望の食事が、出来るようにしています。また、おやつなどは、季節のくだものをいただく。準備はしないが、食後の食器のかたづけは、行ってもらっている。	職員は利用者と一緒に会話をしながら楽しく食事できるように支援をしている。 献立は法人の栄養士が作成しているが、時には利用者の好みを取り入れたり行事食にするなど、食事が楽しみなものとなるよう工夫をしている。 利用者は職員と一緒に食材の皮むきや下ごしらえ、後片付け、下膳など能力に応じて役割を担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者、一人一人の、食事量、水分量のチェック表を使用し、毎日3食の摂取量の確認を行うと共に利用者個人の、好みを聞きバランスの取れる状態に、支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの実施。入れ歯のかたは、入れ歯洗浄剤にて実施。一人で出来ない方は、介助しています。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者のパターンに合わせて、声掛け、誘導を行っている。夜間オムツを使用しているが、日中は、リハパンでトイレで排泄している方もいる。排便に関しては、排便表を活用し、把握している。	職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、時間を見計らって誘導した、利用者の様子から声をかけ、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師と相談し、便秘薬の調節。水分を多く摂るよう声掛けしたり、体操、腹部マッサージ、廊下歩行などを誘ったりしてる。排便のチェック表を、毎日記録している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	こちらの都合で、館の曜日は、決まっているが、本人の希望により、月～土までどの館でも、入浴出来るが、時間帯は、午前中となっている。	入浴はユニット毎に決められた曜日に支援しており、週2回午前中の入浴となっている。 利用者が入浴を拒んだり体調が悪い場合には、3ユニット間で連携して他ユニットの入浴日を利用し、週2回入浴ができるように支援をしている。 利用者や家族等にアンケートを実施したところ、「入浴は現状で良い」との結果が出た。	アンケートでは「入浴は現状で良い」との結果が出たが、真意を出し難い家族等に配慮して運営推進会議等で話し合ったり、職員の勤務体制を工夫するなど、利用者や家族等の希望や意向を汲んだ入浴の支援に取り組むことを期待する。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前中、日光浴、外気浴、体操など、体を動かして、休息したり、安心して、眠れるように、支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人の薬であることを、確認。服薬への安全を図っており、一人一人の、使用している薬の用法と副作用を書き出し、ファイルにとじてあります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞折、食事のときに、テーブル拭きや、下膳、清拭布折、挨拶当番の日には、厨房に牛乳をとりに行ってもらっている。軽作業やレクレーションも積極的に参加している。また、雑巾縫い、植木鉢への水やり、塗り絵、カラオケなども、楽しみの一とつである。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	病院の送迎のとき、季節によってコースを、変えてもらい、花をみたりしている。5月には、家族の支援を得て、大洗水族館の見学に出かけてきました。	天気の良い日は利用者の希望や体調に合わせて散歩に出かけたり、外気浴ができるように支援をしている。 管理者は法人の車両を使用して病院の送迎時にコースを変えたり、遠回りをして花見をするなど、利用者が希望する場所へ行けるように努めているが、利用者の外出の機会は少ない。 家族等の協力のもと、利用者は外食や墓参りに出かけている。	外出は気分転換やストレス解消、五感刺激の機会であり、その人らしく暮らし続けるために大切であることを理解し、利用者が外出を楽しめる機会を増やせるように取り組むことを期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知度により、管理が難し利用者もいるが、本人が管理しているひとは、ホーム内自動販売機で、ジュースを買ったり、電話をかけたりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内にある公衆電話で自由に電話できよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フローアや廊下の壁に利用者の作品を貼ったり、花を飾ったりして季節感を取りいれている。広く長い廊下は歩行訓練に利用したり、ソファを置いて、他の館の利用者とも、会話できるくつろぎの場になっている。	共用空間は利用者が居心地よく過ごせるよう音や光、換気に配慮をしている。 職員はクリスマスツリーなど季節の飾り付けをしたり、廊下に利用者の作品や季節の花を飾り、季節を感じながら過ごせるように支援をしている。 廊下は長く広い設計となっており、利用者の歩行訓練に利用したり、長椅子を設置して他のユニットでも利用者同士がおしゃべりをしたり、穏やかにゆったりと過ごせるよう工夫をしている。 食堂に隣接して畳の部屋があり、利用者はそこで洗濯物をたたんだり寛いで過ごしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った者同士が、自由に居室に遊びに行ったり、ホーム内のソファを利用して、過ごせるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真、ぬいぐるみ、ポスター、絵など好みのものを飾り安心して過ごせるよう工夫している。室内洗濯干しを、持ってきてもらったり、私物の多いかたは、タンスの他にクリアケースなどを、利用したり、生活しやすい様に、家族の方にも協力してもらっている。	利用者は居室に時計や家族等の写真、習字、絵などの作品を飾っているほか、お気に入りの芸能人のポスターを貼ったり、ぬいぐるみを置くなどで居心地よく暮らせるよう工夫をしている。 居室には洗面台が備え付けられており、歯ブラシやコップ、室内洗濯干しを持ち込んでもらい、自立した生活ができるよう取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や場所を間違えないよう、プレートで明確の表示している。バリアフリーで安全な環境にあり、自立した生活が送れるように工夫している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまにある <input type="radio"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム温泉大洗

作成日 平成24年5月25日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念の共有と実践	理念を共有する機会を設ける	地域密着型の理念を共有し、日々職員が意識を持って、実践していく	H24. 4月
2	5	身体拘束をしないケアの実践	身体拘束排除のマニュアルを作成する。身体拘束に関する研修会を行う。	職員全員が身体拘束排除のマニュアルで研修をして、身体拘束のないケアの実践に取り組む	H24. 5月
3	13	災害対策	地域の方の参加を呼びかける	避難訓練のある日を近隣の消防団の方々にお知らせし、参加を呼びかけていく。	H23. 9月
4	17	入浴を楽しむことができる支援	アンケート実施は行ったが今後、随時工夫をしていく	面会時や介護更新時など家族の意向を汲んだ支援に取り組めます。	H24. 12月
5	18	日常的な外出支援	外出を楽しめる機会を増やす	病院の車を最大限生かす。家族や地域の人々の協力を得て外出が増えるよう取組みます	H24. 12月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。